

## \* 8 被服材料の性質と衣服気候との関係（第2報）

### 化繊スーツについて

奈良県山辺高校 ○渡会 和  
奈良女子大学 水梨サワ子

昭和 32 年 10 月第 9 回日本家政学会総会に於いて、被服材料の性質と衣服気候との関係を、化繊ブラウス 7 種について報告したが引続き同様の関係を低温の向寒期に於いて検したいと思ひ、化繊スーツ 5 種について、第 1 報と同様の着装実験を行い、材料の性質と衣服気候の関係を比較検討した。

以上の結果、次の結論を得た。

1. 気温 ( $10\sim 20^{\circ}\text{C}$ ) 気湿 (60~70%) 内外に於いては、被服材料の性状のうち特に保温性は衣服気候の温度へ単一的な影響をあたえ、外気温の低下に正比例して顕著である。
2. 被服材料の性状のうち通気性・吸湿性は衣服気候の湿度への影響は殆んど認められず、いずれのスーツの衣内湿度も好適域内にある。
3. 温感も保温性と同調していることから考え合わせると、向寒期の衣服気候形成の要素として、被服材料の含気性は最も重要と云える。